



ハッブル宇宙望遠鏡画像集 「驚異の宇宙」

山岡 均 著

アストロアーツ 編

株式会社アスキー、定価 4,200 円+消費税

CD-ROM

お薦め度
☆☆☆☆★

「ハッブル宇宙望遠鏡」は NASA（米国航空宇宙局）が 1990 年に打ち上げた画期的な天文観測衛星である。1993 年と 1997 年の 2 度の修理・改修作業を経て、今も日々観測を行い、次々と驚異的な画像を送り続けている。

今回紹介する「ハッブル宇宙望遠鏡画像集『驚異の宇宙』」は NASA（米国航空宇宙局）の公開画像を見ながら日本語の解説文を読んで、ハッブル宇宙望遠鏡の成果を知ることができる CD-ROM である。天体画像を対象天体によって「我々の太陽系」、「星の誕生と惑星系形成」、「星の死」、「星団とダークマター」、「近傍の銀河」、「遠方の銀河と宇宙の初期」の 6 つのジャンルに分類し、各画像に詳細な解説をつけて紹介している。

この画像集の特徴は、まず豊富な画像それぞれに詳細な日本語解説文がついていることである。さらに、解説文中に出てくる専門用語や天体についての情報は、キーワードからのリンクを辿ることで附属の「天文事典『VEGA』」を参照することができる。1 枚の画像を見て解説文を読むことから、次々と新たな興味が湧いてくるような作りになっている。パソコン上の操作も簡単で、ネットサーフィン感覚で天体画像を楽しむことができる。天体の位置が付近の星図とともに示しており、スターウォッチングに慣れた方には、実際の夜空でその天体がどこにあるのかが分かって楽しい。

「特集『ハッブル宇宙望遠鏡について』」では、ハッブル宇宙望遠鏡の発案・開発から現在にいたるまでの経緯や搭載されている観測装置の概要が

解説されている。特に、軌道上で行われた修理・改修に関する話は貴重な映像も交えて書かれており、必見である。

次に不満な点をあげると、「画像検索」のところで「画像番号検索」以外にも「キーワードによる検索」が欲しい。画像集の構成がジャンル別になっているので、ある程度予備知識がないと、見たい天体の画像を探し出すのは難しい。例えば、オリオン大星雲の画像がみたいとき、オリオン大星雲と星形成に関する知識がなければすぐには「星の誕生と惑星系形成」のジャンルをクリックできない。キーワード検索があれば天体名などから簡単に目的の画像をみつけることができる。「天文事典『VEGA』」の用語解説から逆に関連画像へのリンクもあれば良かったと思う。さらに細かいことを指摘すれば、「特集『ハッブル宇宙望遠鏡について』」の文章では専門用語が頻繁に出てくるがそれらには用語解説へのリンクがほとんどない。また、「天文事典『VEGA』」を使うとき、背景の模様が細かくちらつくようで解説の文字が読みにくい点は改善の余地があったと思う。

最後に、この画像集にはハッブル宇宙望遠鏡がとらえた鮮明な画像が豊富に盛り込まれている。次々に表示される美しい画像はまるで想像画のようなものである。しかし、本製品のパッケージにも書いてある通り、「これは SFX ではない!!」のである。この画像集に示されている「驚異の世界」こそが、私達もその一部である「宇宙の姿」なのである。

森 淳（東京大学）